【令和6年度北鹿島小学校　学校評価計画】

1　前年度 評価結果の概要	・自主的体育活動の推進については、バッゴー大会やボウリング大会等、児童が自主的に計画し、児童主体で活動に取り組むことができた。そのため、児童は、楽しみながら体を動かすことの心地よさを味わうことにつながった。 ・教職員の個々の課題解決に向けて、メンタリングという手法を取り入れることにより、課題解決のために自ら積極的に動く姿と課題に悩む職員のためにさらに学び、学びを与えようとする姿が見られ、さらに風通しの良い職場環境となった。 ・年休取得については、積極的な声かけと年休をとってもバックアップできる校内での体制をとることにより、取得日数が増えた。しかし、
2　学校教育目標	「命　ひびき合い」 ★児童一人一人が可能性を広げ、生き生きと自分のよさを発揮している姿 ★学び合いながら互いの良さを認め、それぞれの感性をひびき合わせている姿 ★保護者や地域の人の支えに感謝し、自分たちの学びを発信する姿
3　本年度の重点目標	「技」授業力の向上　　「心」特別支援教育の充実　「体」身体遊び・運動習慣の定着　【連携】地域との体験活動の充

4　重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○教職員全体の授業力向上と家庭学習の充実に基づく児童の学力向上	○授業力向上に係る授業公開もしくは授業参観(OJT)を全職員が2回以上行う。 ○学年ごとのめやす時間(1・2年生30分　3・4年生　45分　　5・6年生　60分) 以上家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上にする。	・職員が学びたいことや職員の強みを整理し、マッチングを行いやすい環境をつくる。 ・みるみるシートを活用し、メンター、メンティにフォローアップすることで、授業公開の効果を高める。 ・職員全体で家庭学習の充実に取り組むことができるよう、OJT研修を実施したり、家庭学習に係る便りを作成・配布したりする。	学力向上PJ(澤野)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活アンケートで、「学校生活の中で、自分のことを認めてもらうことがありますか。」の割合を85%以上にする。	・「命ひびき合い広め隊」の放送で、子どもたちが自分の良さを発揮している姿を紹介する。放送で紹介されたカードを掲示したり、本人にカードを直接渡したりすることで、自己肯定感を高めていく。 ・道徳の授業を年１回公開し、家庭への啓発を行う。	心の教育PJ(飯盛)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」の実施で、学校生活が楽しい児童の割合を85%以上にする。	・月に１回生活アンケートをとり、児童１人１人をより小まめに把握し、問題の早期解決を図る。 ・年間１回以上、校外の講師を招いて研修会を行い、子どもの見取り方を学ぶ。	心の教育PJ(飯盛)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上にする。	・全職員で子どもの他者を思いやる姿やさりげなく助け合う姿を褒めていく。 ・自分の良さや特技を発表できる「いきいき集会」を年２回開催し、互いの良さを認め合うことで、他者を思う心や自己肯定感を育てていく。	心の教育PJ(飯盛)
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・	
●健康・体つくり	❹「安全に関する資質・能力の育成」	❹児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・「北鹿島小安全マップ」を用いて、危険個所等について児童と情報を共有する。 ・地域見守り一斉下校指導を年間3回行い、安全教育の推進を図る。	健康教育PJ(楠久)
	○自主的体育活動の推進	○進んで運動しようとする児童の割合90%以上を目指す。	・委員会による外遊び推奨や県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」への取組等で、全児童の運動への意識向上の支援を行う。 ・たてわり活動やマラソンタイムを充実させる。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・児童の情報共有や職員連絡会等でICTを活用し、業務改善を図る。 ・職員会議までの手順や提案の仕方を見直すことで、会議時間の縮小を図る。	管理職(渡邊)
	○計画的な年休取得の促進	○年間年休取得日数平均14日以上を目指す。	・担任が年休をとりやすい職場づくりや長期休業中にまとまった年休がとれるように会議、研修の精選を行う。	
●特別支援教育の充実	○全職員の意識と専門性の向上 ○家庭との連携	○教育活動を進めていくにあたって、合理的配慮を行っていると回答する職員を95%以上にする。 ○「学校は、児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」という問いに、肯定的な保護者の回答を85%以上にする。	・合理的配慮を取り入れた環境および授業づくりについて、職員みんなで学ぶ研修会を行う。 ・児童のつまずきに応じた指導を工夫し、その手立てと効果について、通信等で保護者に発信していく。	特別支援教育(大串)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○地域連携	○ 体験活動の計画的実践。	○地域のよさを感じとることができる児童90%以上を目指す。	・地域人材を活用した体験活動を仕組む。 ・児童が主体的に取り組むことができるような単元づくりを工夫する。 ・体験活動で学んだことを発信する場を設定する。	郷土愛・体験活動P(乗田)

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育